




## 病害虫発生予察情報予報第 13 号

佐賀県農業技術防除センター


### I. 予報の概要および各作物の特記事項


作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
大麦および小麦	赤かび病	並	並	138~140	 赤かび病
	うどんこ病	並	並	141	
	<b>1. 赤かび病</b> 圃場ごとの生育状況を確認し、適期に防除を行う。 大麦の防除適期は、葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）で、更に、その7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる。 小麦での防除適期は、開花期～開花最盛期（出穂期の約10~14日後）である。更に、その10~20日後に2回目の散布を行うと効果が高まる。				
大麦	網斑病	並	多	137~138	
	<b>1. 網斑病</b> 発生が認められる圃場がある。発生状況を確認し、出穂期～穂揃い期に本病を対象とした薬剤防除を行う。				
水稻	いもち病	並	並	126~135	 いもち病
				137~142	
	ばか苗病	並	並	126~135	
<b>1. いもち病</b> 昨年、多発生した地域では、菌密度が高まっていると考えられる。既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底し、いもち病常発地帯では育苗期から防除を行う。					

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生7/4	並	やや多	 べと病
		中晩生	並	やや多	
	ポトリチス葉枯症	並	並	269	
	細菌性病害（腐敗病・軟腐病）	多	多	271~272	
	ネギアザミウマ	並	やや多	276	
<b>1. べと病</b> 本病による被害を抑えるには、二次感染株の発生を少なくすることが重要であるため、引き続き、越年罹病株の抜取りを行うとともに重点防除期の7日間間隔の薬剤防除を切れ目なく確実に実施する（平成30年3月1日付け病害虫発生予察注意報第5号参照）。なお、薬剤の流亡を防ぐため、降雨までに薬剤が十分に乾く時間を設ける。					

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (本圃)	ハダニ類	やや多	並	214~215	 ハダニ類による被害株
	うどんこ病	少	並	204~206	
	灰色かび病	多	多	206~208	
	アブラムシ類	多	やや多	219~220	
	アザミウマ類	多	多	216	
<b>1. ハダニ類</b> 発生圃場では、薬剤のかけムラをなくすため不要な下位葉等を除去し、系統（IRAC コード）が異なる薬剤（防除のてびき P478 参照）を組み合わせ5~7日間隔で防除を実施する。（平成30年1月30日付け病虫害発生予察注意報第4号参照）。 使用できる殺ダニ剤が少ない場合は、気門封鎖系薬剤（粘着くん液剤、エコピタ液剤等）等を積極的に活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いので、5~7日間隔で計2回を1セットとして散布する。なお、葉害を避けるため、単剤で用いることとし、また、開花盛期の使用は避ける。さらに、加温機を稼働する等して濡れ時間の短縮を図る。					
<b>2. アザミウマ類</b> 発生が多い圃場が認められる。本虫による被害を防ぐため、低密度時に防除を実施する。					
<b>3. 親株でのハダニ類、立枯性病害</b> 健全苗を育成するため親株床から薬剤防除を実施する。立枯性病害（炭疽病、萎黄病、疫病）の苗での発生を抑えるため、発病した親株は、見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。					
キュウリ	べと病	やや少	やや少	184~185	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ病	やや少	少	182~183	
	灰色かび病	並	並	185~186	
	褐斑病	やや少	少	187~188	
	アザミウマ類	並	並	196	
	コナジラミ類	並	並	195~196	
<b>1. ミナミキイロアザミウマ（黄化えそ病）、タバココナジラミ（退緑黄化病）</b> 両害虫はウイルス病を媒介するため、低密度時に薬剤防除を実施する。また、罹病株を認めた場合は早急に除去するとともに、媒介虫を対象とした薬剤防除を実施する。 スワルスキーカブリダニを利用する場合は、両害虫の密度を薬剤防除により0頭レベルまで抑えた後に放飼する。					
トマト	葉かび病	やや多	やや多	231~232	 葉かび病
	灰色かび病	やや少	並	226~227	
	コナジラミ類	並	やや少	157~159 234~236	
<b>1. コナジラミ類（黄化葉巻病）</b> ウイルス病を媒介するため、低密度時に薬剤防除を実施する。また、罹病株を認めた場合は早急に除去するとともに、媒介虫を対象として薬剤防除を実施する。					
ナス	すすかび病	少	やや少	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	やや多	234~235	
	アザミウマ類	やや少	少	160~165 247~248	
	コナジラミ類	やや少	やや少	157~159 248~249	

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
アスパラガス	アザミウマ類	並	並	322	
	<b>1. 茎枯病、褐斑病、斑点病</b> 立茎開始初期から20～30日間隔で防除を行う。また、茎枯病の発病茎は伝染源となるため、見つけ次第地際部から切断し圃場外で適切に処分する。				
施設野菜共通	<b>1. アザミウマ類、コナジラミ類</b> 今後、施設外からの侵入が増加するため、侵入がないように防虫ネットを設置する。 <b>2. 灰色かび病</b> 今後は暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿となりやすく本病の発生が増加しやすくなる。こまめな換気や循環扇の活用により適切な温湿度管理を行い、発病葉や果実、花卉等は除去、処分する。また、少発生時から薬剤防除を行うとともに、曇雨天が続くと予想される場合は予防防除を実施する。				

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
果樹全般	果樹カメムシ類	多	多	240～243	
	<b>1. 果樹カメムシ類</b> (1) チャバネアオカメムシ 平成30年3月12日付け病虫害対策資料第16号を参照。 (2) ツヤアオカメムシ 昨年秋季の発生が平年に比べ多かったため、チャバネアオカメムシ同様、越冬量が多いと思われる。本種は常緑樹(イヌマキ、ツバキ、カシ類等)の樹冠内で越冬するため、常緑樹が周辺に存在する園では特に園内での発生に注意し、発生が認められた場合には薬剤防除を行う。				
カンキツ	そうか病	並	並	210～212	 ミカンハダニ
	かいよう病	並	並	214～216	
	ミカンハダニ	多	並	234～238	
<b>1. ミカンハダニ</b> 殺ダニ剤に対する抵抗性発達を避けるため、4月～6月下旬はマシン油乳剤の使用を基本とする。ただし、樹勢が低下している樹や着花が少ない樹では、マシン油乳剤の散布を控え、殺ダニ剤散布で対応する。 <b>2. かいよう病</b> 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種(ネーブル、はるみ等)の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園(幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等)では、展葉初期の防除を徹底する。					
ナシ	黒星病	並	並	278～281	
	<b>1. 黒星病</b> 開花直前～落弁期は本病の重要な防除時期であるため、7～10日間隔での薬剤防除を徹底する。SSで散布を行う場合は必ず全列散布を行う。なお、降雨が続く場合はDMI剤の追加散布を行う。				
ブドウ	黒とう病	並	並	325～327	
	<b>1. 黒とう病</b> 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期～生育初期の薬剤防除を徹底する。				

キウイフルーツ	<p><b>1. かいよう病</b></p> <p>枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液が漏出する症状（右写真参照）の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。また、<b>すべての園において、6月まで感染防止のための銅水和剤及び抗生物質剤を主体とした定期的な薬剤防除を実施</b>する。なお、幼木は成木に比べ発病しやすいため、薬剤防除を徹底する（平成30年2月23日付け病害虫対策資料第15号参照）。</p>	 <p>かいよう病による樹液の漏出</p>
---------	--	--

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多	407~408	
	<p><b>1. カンザワハダニ</b> 多発してからでは防除効果があがりにくいいため、マシン油を散布した園においても、萌芽前までの防除を確実に実施する。また、一番茶萌芽後に発生がみられた場合は、摘採前日数に留意し追加防除を行う。</p> <p><b>2. チャトゲコナジラム</b> 改植園では、定植苗木に本虫の寄生がないか確認する。本虫が寄生していた場合は枝葉を落として定植し、定植直後にマシン油乳剤を散布する。除去した枝葉は土中に埋設するなど適切に処分する。</p>				

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	4月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
キウ	白さび病	やや少	並	390~391	 <p>白さび病</p>
	アザミウマ類	並	並	394~395	
	アブラムシ類	並	並	397~398	
	ハダニ類	やや少	並	396	
	ハモグリバエ類	並	並	399	
	<p><b>1. アザミウマ類</b> 今後、施設外からの侵入が増加するため、圃場周辺の雑草を除草し、侵入防止に努めるとともに、圃場内の発生状況を随時確認し、低密度時から防除を行う。</p>				

注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。  
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。  
 ○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
 6ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 4月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する4月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成30年3月23日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における4月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (15.0℃)	50	高い
降水量	40	40 (198 mm)	20	やや少ない



### Ⅲ. 4月の予報

#### 麦類

定期調査（大麦22圃場、小麦22圃場）  
3月15日～20日



定期調査圃場の様子(左:大麦、右:小麦)

#### 1. 赤かび病

##### 1) 予報の内容

発生時期：平年並（前年よりやや早い）

発生量：平年並（前年並）

##### 2) 予報の根拠

###### (1) 麦の生育状況と本病の発生時期

平成29年11月下旬～12月下旬播きでは、節間伸長開始期は大麦、小麦で遅い（農業試験研究センター・県米麦改良協会：平成30年3月22日付け麦づくり情報第4号）。今後、気温が高く経過すれば、出穂期は平年並になる見込みであり、本病の発生時期は平年並になると予想される。

###### (2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、降水量はやや少なく、並発生の条件〈±〉

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂期以降に高温（20～27℃）で、降雨が続く場合には多発することが予想されるため、追加防除を実施する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

#### 2. 網斑病（大麦）

##### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より多い）

##### 2) 予報の根拠

###### (1) 発生の現況

###### ① 定期調査（図1参照）

発生茎率2.7%（平年1.9%、前年0.1%）

平年比：並〈±〉

前年比：やや多〈±～+〉

###### (2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、降水量はやや少なく、並発生の条件〈±〉

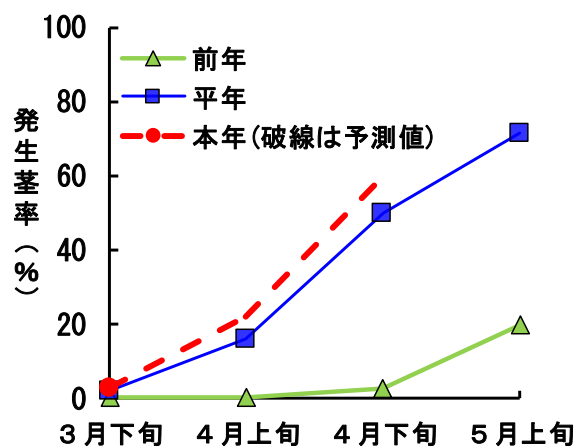


図1 大麦網斑病の発生推移

##### 3) 防除上注意すべき事項

特記事項を参照。

#### 水稻

#### 1. いもち病（苗いもち）

##### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

##### 2) 予報の根拠

###### (1) 前年の穂いもちの発生状況

平成29年の穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稻（8月上旬）で2.3%（平年4.9%）、北部山間の

早植え水稻（9月上旬）で0%（平年11.8%）、普通期水稻（10月上旬）で23.2%（平年14.3%）であり、早期、早植えは平年よりやや少なかったものの、普通期は平年よりやや多く、多発生した地域も一部でみられた。〈±〉

(2) 以上のことから、一部の普通期水稻で発生が多かったものの、圃場等での菌密度は平年並と考えられる。〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 種子更新を徹底する。
- (2) 育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいので、覆土を適正に行う。
- (3) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。
- (4) 長期残効型の育苗箱施薬剤を施用する。
- (5) その他については、特記事項を参照する。

## タマネギ

巡回調査：20 圃場  
 （早生 10 圃場、中晩生 10 圃場）  
 調査日：3月14～15日



## 1. ベと病（早生マルチ）

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.08%（平年0.52%、前年0.08%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

【実際の発生はこれより多いが、越年罹病株の抜取りにより低減されているとみられる】

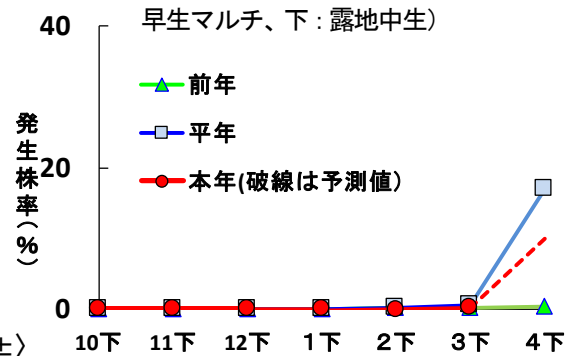
##### ② 抜取りの不十分なほ場が一部でみられる。〈±～+〉

#### (2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、降水量はやや少なく、並発生の条件〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 排水不良は本病の発生を助長するため、通路に停滞水がみられるほ場では、排水口までの導水を確保する。
- (2) その他については、特記事項を参照する。



巡回調査圃場の様子（上：早生マルチ、下：露地中生）

図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

## 2. ベと病（中晩生）

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.29%（平年0.39%、前年0.31%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

【実際の発生はこれより多いが、越年罹病株の抜取りにより低減されているとみられる】

#### (2) タマネギの生育

冬期の気温が平年より低く推移したため、生育は平年に比べると

やや遅れているため、今後、越年罹病株が遅くまで発生する可能性がある。〈±～+〉

#### (3) 4月の気象予報

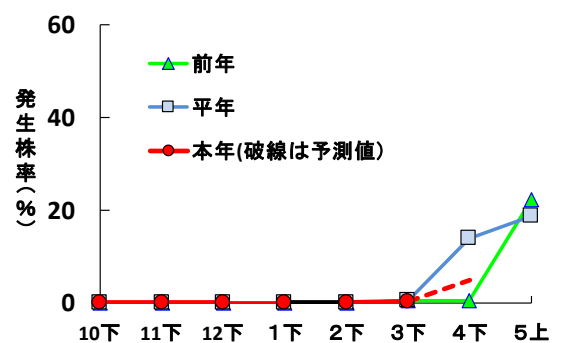


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

気温は平年より高く、降水量はやや少なく、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 排水不良は本病の発生を助長するため、通路に停滞水がみられるほ場では、排水口までの導水を確保する。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

### 3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年10.6%、前年0%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）

(2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、降水量はやや少なく、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた場合には、速やかに防除を実施する。

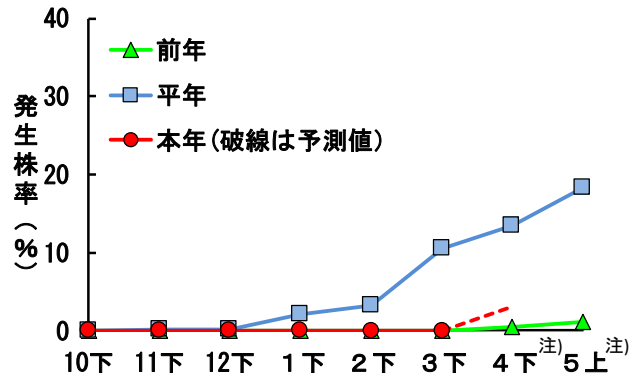


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移  
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

### 4. 細菌性病害（腐敗病・軟腐病）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 腐敗病の発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.3%（平年0.05%、前年0.2%）

平年比：多〈+〉 前年比：並〈±〉

(2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、降水量はやや少なく、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた場合には、速やかに防除を実施する。
- (2) 4月以降に軟腐病が発生しやすいので、予防防除を行う。

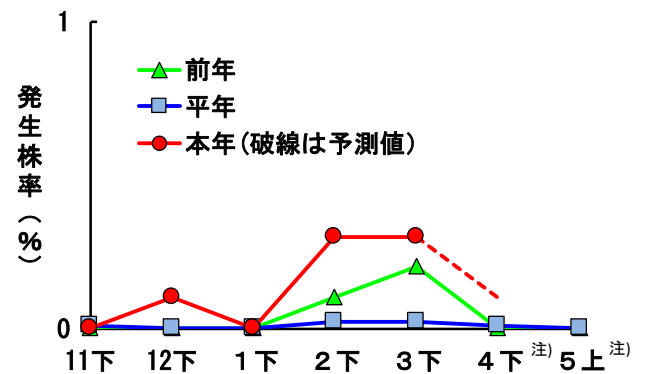


図1 タマネギでの細菌性病害の発生推移  
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

### 5. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年6.3%、前年1.1%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）

(2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 春期の増加を防ぐため、低密度時に防除を実施する。

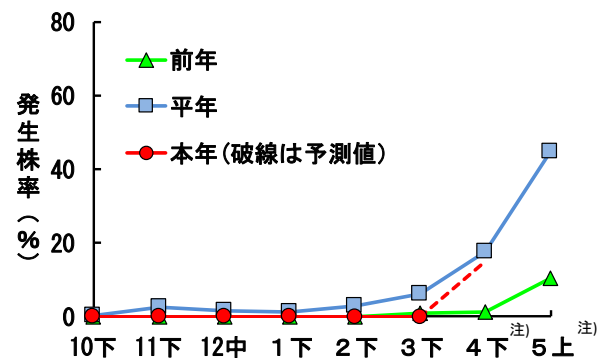


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移  
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査



# イチゴ（本圃）

農技防調査：11 圃場、防除員調査：6 圃場  
調査日：3月15日～20日



巡回調査圃場の様子

## 1. ハダニ類

1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：29.9%（平年19.1%、前年30.3%）  
平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によりハダニ類の薬剤感受性が異なるため、防除効果を確認し、薬剤を選定する。
- (2) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する
- (3) 天敵を利用している圃場でハダニ類が急増した場合は利用を中止し、殺ダニ剤による防除を行う。
- (4) その他については特記事項を参照。

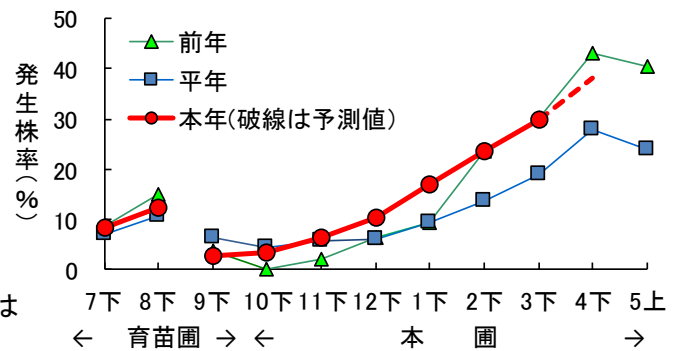


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

## 2. うどんこ病

1) 予報の内容  
発生量：平年より少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.9%（平年5.1%、前年0%）  
平年比：少（-） 前年比：並（±）

(2) 4月の気象予報

降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除においては、同一系統の薬剤の使用回数が増えないように注意する。

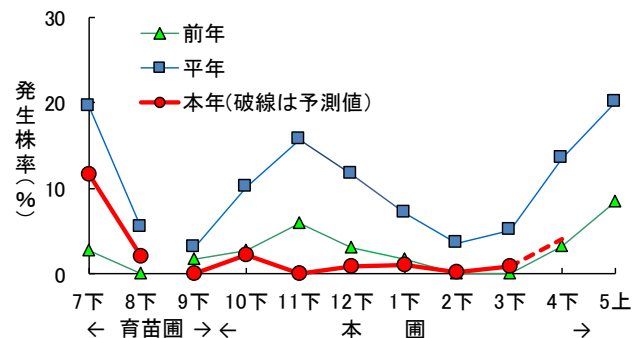


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

## 3. 灰色かび病

1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.8%（平年0.1%、前年0%）  
平年比：やや多（±～+）  
前年比：やや多（±～+）

(2) 4月の気象予報

降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

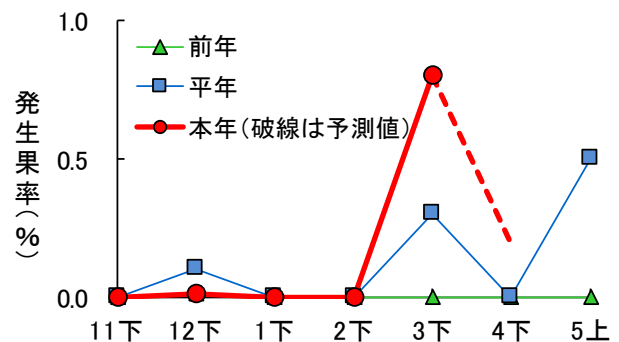


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

(1) 施設野菜共通の特記事項を参照。

## 4. アブラムシ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.6%（平年0.1%、前年0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に薬剤防除を実施する。

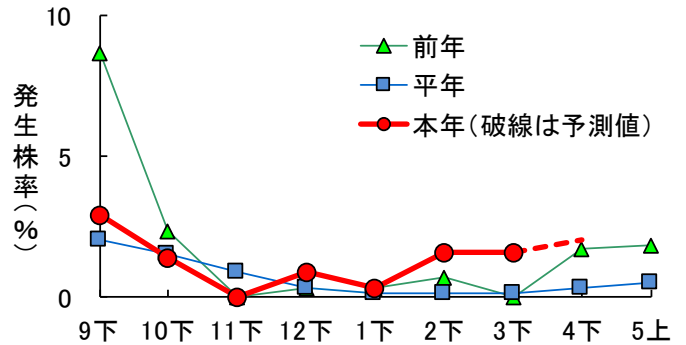


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

## 5. アザミウマ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：13.5%（平年3.9%、前年7.0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

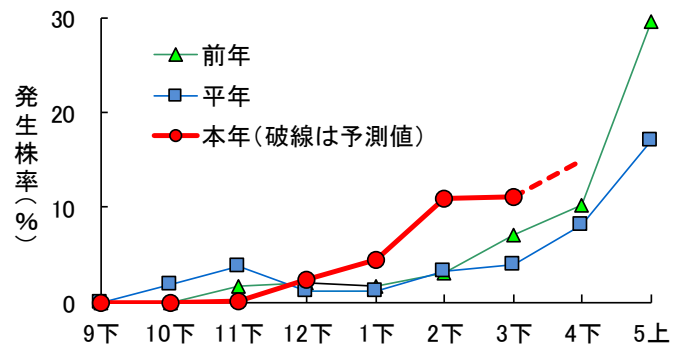


図1 アザミウマ類のイチゴでの発生推移

## キュウリ（半促成）

農技防調査：8 圃場  
調査日：3月15日～20日



巡回調査圃場の様子

## 1. ベと病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.7%、前年6.9%）

平年比：やや少<一～±> 前年比：少<一>

#### (2) 4月の気象予報

降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件<一～±>%

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場での発生に注意し、初発生時から計画的な防除を行う。

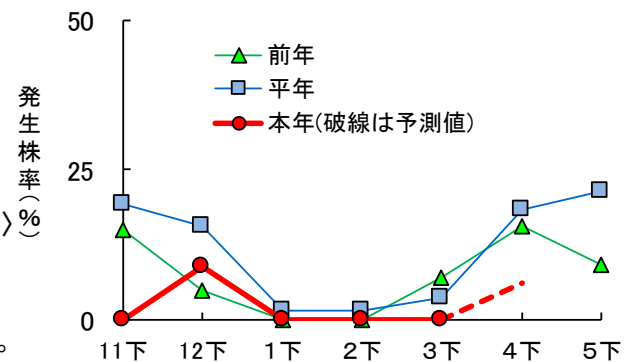


図1 キュウリべと病の発生推移

## 2. アザミウマ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0% (平年 3.5%、前年 5.6%)

平年比: やや少 (<-~±) 前年比: 少 (<-)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

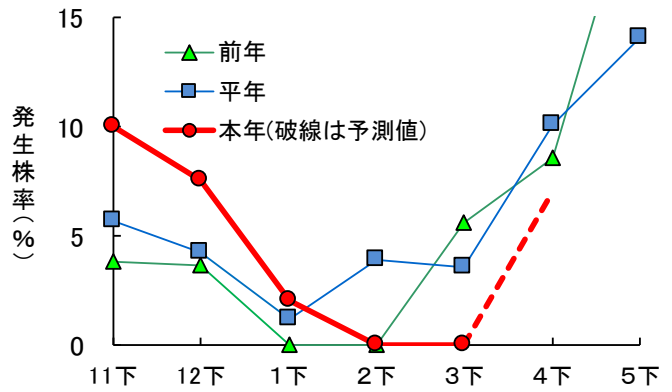


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

### 3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0% (平年 0.2%、前年 0%)

平年比: 並 (<±) 前年比: 並 (<±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

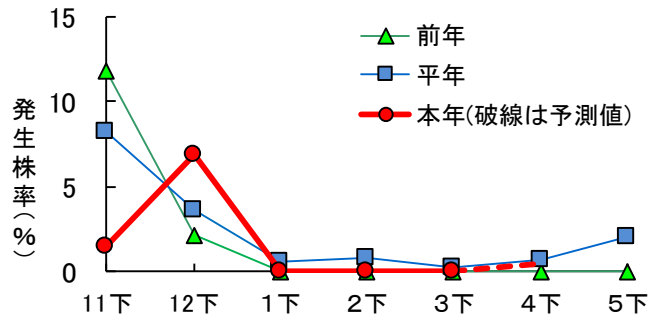


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

## トマト

農技防調査: 8 圃場、防除員調査 6 圃場

調査日: 3月15日~20日

### 1. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 12.5% (平年 2.7%、前年 1.3%)

平年比: 多 (<+) 前年比: 多 (<+)

(2) 4月の気象予報

降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件 (<-~±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の除去と系統 (FRAC コード) の異なる薬剤 (防除のてびき P479-482 参照) を組み合わせて薬剤防除を実施する。



巡回調査圃場の様子

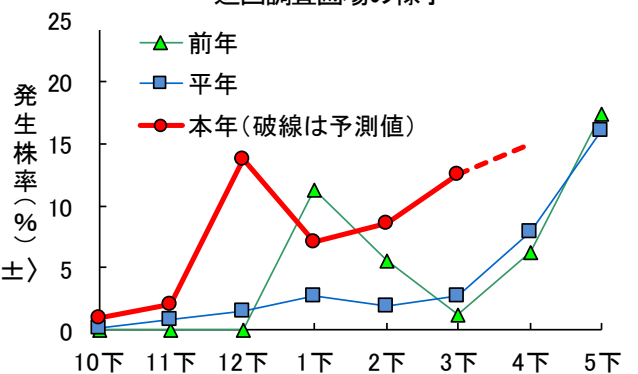


図1 葉かび病のトマトでの発生推移

### 2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

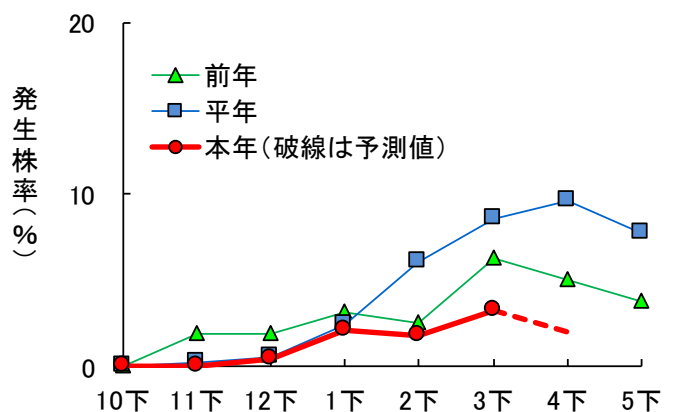


図1 灰色かび病のトマトでの発生推移

発生株率：3.2%（平年8.6%、前年6.3%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

②4月の気象予報

降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の早期除去とともに系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせる予防的な薬剤防除を実施する。

(2) その他については施設野菜共通の特記事項を参照。

### 3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.5%（平年2.4%、前年0.6%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照

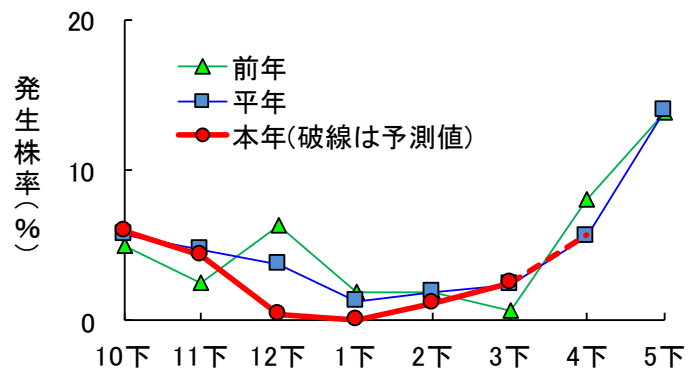


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移



定期調査圃場の様子

## ナス（促成）

定期調査（7圃場）、防除員調査（6圃場）

調査日：3月14～16日

### 1. すずかび病

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率7.3%（平年24.4%、前年12.9%）

平年比：少（-） 前年比：やや少（-～±）

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。散布の際は、これら剤の総使用回数に注意する。

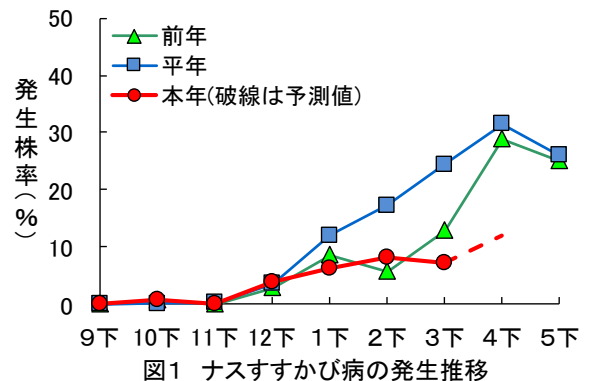


図1 ナスすずかび病の発生推移

### 2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 4.2% (平年 1.6%、前年 0.7%)

平年比：多<+> 前年比：多<+>

2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設果菜類共通の特記事項を参照。

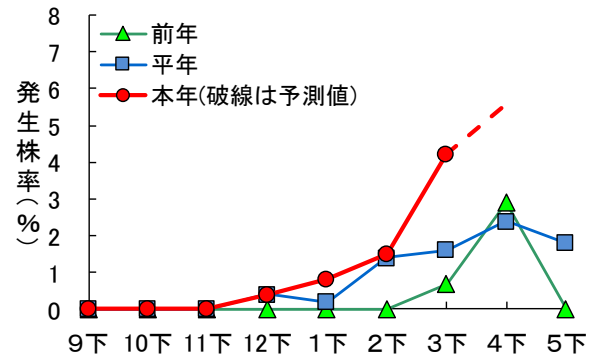


図1 ナス灰色かび病の発生推移

### 3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 2.3% (平年 7.9%、前年 7.9%)

平年比：やや少<一~±> 前年比：やや少<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

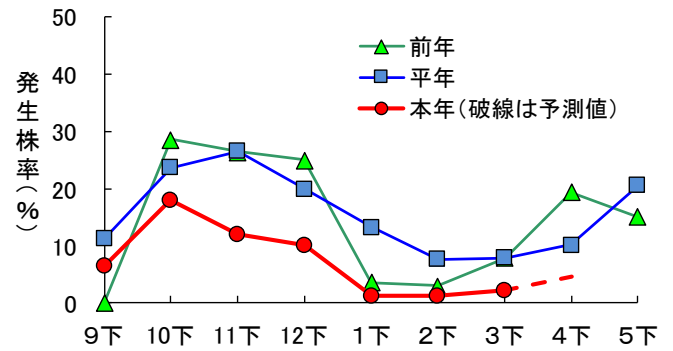


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

### 4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 4.2% (平年 12.4%、前年 10.0%)

平年比：やや少<一~±> 前年比：やや少<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

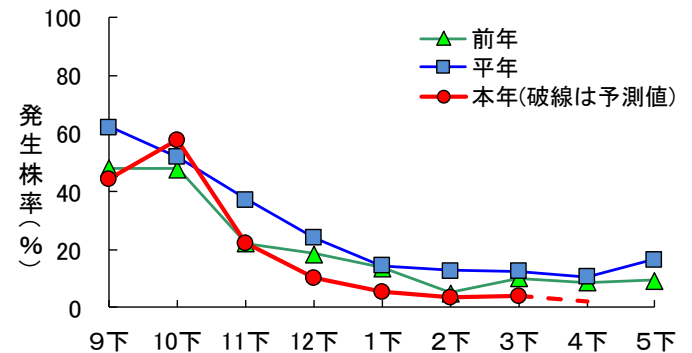


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

## 果樹全般

### 1. カメモシ類

1) 予報の内容 (4月~8月上旬)

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) チャバネアオカメモシの越冬状況調査 (平成29年2月に調査、表1)

① 越冬地点率：68.2% (平年 37.7%、前年 18.2%)

平年比：多<+> 前年比：多<+>

② 平均越冬虫数：0.67頭/m<sup>2</sup> (平年 0.23頭/m<sup>2</sup>、前年 0.14頭/m<sup>2</sup>)

平年比：多<+> 前年比：多<+>

越冬密度は平年及び前年より多いと考えられることから、本年4月~8月上旬の果樹カメモシ類の発生量



は、平年及び前年より多いと予想される。

(2) 4月の気象予報

気温が高く、カメムシの飛来が多くなると予想される〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

表1 チャバネアオカメムシの越冬状況の調査結果。

調査地域	H30	平年 <sup>2)</sup>	(参考)		
			H14 (多発年)	H16 (多発年)	H18 (多発年)
	頭/m <sup>2</sup>	頭/m <sup>2</sup>	頭/m <sup>2</sup>	頭/m <sup>2</sup>	頭/m <sup>2</sup>
みやき町	1.0 <sup>1)</sup>	0.47	-	-	-
吉野ヶ里町	0.3	0.20	1.0	1.5	1.7
神崎市	0.7	0.76	0.7	0	0
佐賀市	0	0.17	0.7	1.8	1.2
小城市	0	0.10	0.3	0.3	0.3
多久市1	0	0.18	2.0	0.5	0.3
多久市2	1.0	0.04	-	-	-
唐津市1	0.7	0.07	0.4	0.9	1.2
唐津市2	0	0.03	-	-	-
唐津市3	0.3	0.07	-	-	-
伊万里市1	0	0.06	1.2	1.2	2.2
伊万里市2	0.7	0.22	-	-	-
伊万里市3	1.3	0.44	-	-	-
武雄市1	0.3	0.19	6.7	7.3	3.3
武雄市2	1.3	0.14	-	-	-
鹿島市1	1.3	0.19	1.1	1.3	1.4
鹿島市2	2.7	0.14	-	-	-
鹿島市3	0.7	0.26	-	-	-
太良町1	1.3	0.21	2.6	2.1	1.5
太良町2	1.0	0.34	-	-	-
太良町3	0	0.60	-	-	-
太良町4	0	0.23	-	-	-
平均	0.67	0.23	1.67	1.69	1.31
越冬地点率(%)	68.2	37.7	88.0 <sup>3)</sup>	88.0	91.3

<sup>1)</sup>各地点3か所(1か所/m<sup>2</sup>)の落葉を採集して持ち帰り、その中から確認した越冬虫数の平均

<sup>2)</sup>平年値はH20～H29までの10か年の平均

<sup>3)</sup>H14,16,18の平均越冬虫数は各市町毎に平均値を出して1地点としており、越冬地点率は延べ調査地点数で算出。。

## カンキツ

定期調査：8圃場

調査日：3月14～16日



定期調査圃場の様子

### 1. そうか病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

- (2) 4月の気象予報  
降水量がやや少なく、やや少発生の条件〈一～±〉

- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 温州みかんでは、展葉初期（最も伸びた新梢が1cm程度）に薬剤防除を必ず実施する。

## 2. かいよう病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生葉率：0%（平年0.3%、前年0%）  
平年比：やや少〈一～±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 4月の気象予報  
降水量がやや少なく、やや少発生の条件〈一～±〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 特記事項を参照。

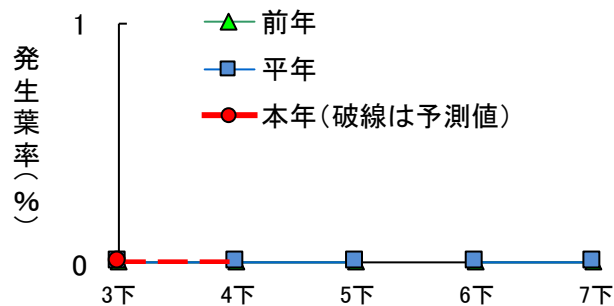


図1 カンキツそうか病の発生推移  
注) 5月下旬までは旧葉を調査

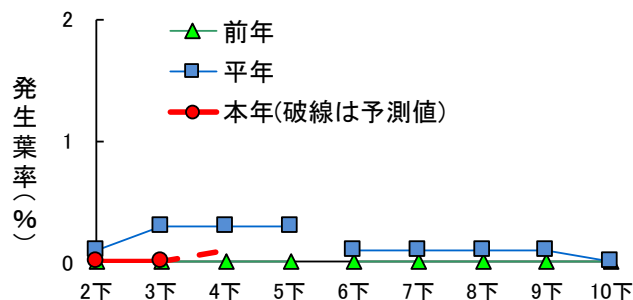


図1 カンキツかいよう病の発生推移  
注) 5月下旬までは旧葉を調査

## 3. ミカンハダニ

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生葉率：0.6%（平年1.6%、前年2.6%）  
平年比：並〈±〉 前年比：やや少〈一～±〉
- (2) 4月の気象予報  
気温が高く、降水量はやや少なく、多発生の条件〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 特記事項を参照。

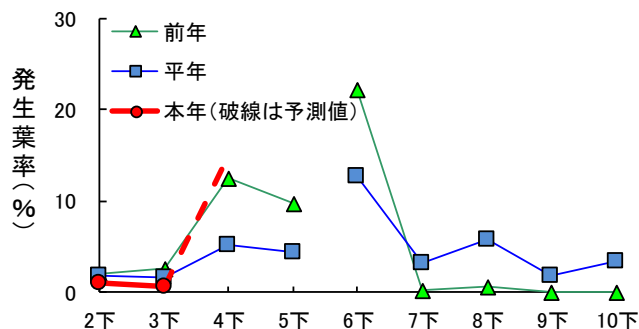


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移  
注) 5月下旬までは旧葉を調査

# ナシ

## 1. 黒星病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠  
(1) 昨年秋の発生状況  
① 定期調査（平成29年9月下旬）  
発生葉率：0%（平年0.9%、前年0.1%）  
平年比：やや少〈一～±〉 前年比：並〈±〉  
このことから、園内の菌密度は、平年に比べやや少なく前年並と考えられる。
- (2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件〈一～±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## ブドウ

### 1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

① 定期調査（平成29年9月下旬）

発生葉率：0.5%（平年0.2%、前年1.0%）

平年比：やや多〈±～+〉 前年比：やや少〈一～±〉

このことから、園内の菌密度は、平年に比べやや多く、前年よりやや少ないと考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件〈一～±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照



## 茶

定期調査：7圃場

調査日：3月14～16日

### 1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：3.1%（平年7.6%、前年3.0%）

平年比：やや少〈一～±〉 前年比：並〈±〉

(2) 4月の気象予報

気温が平年より高く、降水量がやや少なく、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

定期調査圃場の様子

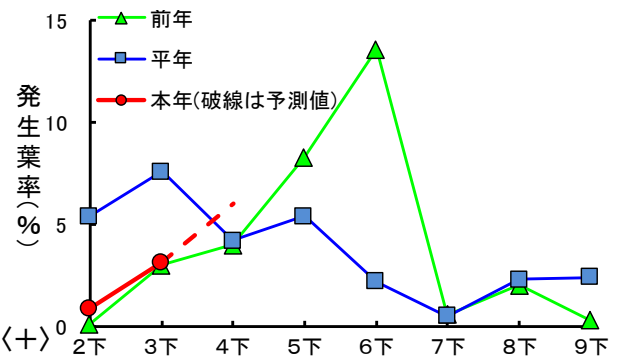


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

## キク

定期調査（8圃場）

調査日：3月14～16日

### 1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）



定期調査圃場の様子

発生株率0%（平年2.6%、前年0%）  
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

- (2) 4月の気象予報  
 降水量が平年よりやや少なくやや少発生の条件（一～±）

- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。  
 (2) 発病前からの定期的な薬剤散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。  
 (3) 薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。

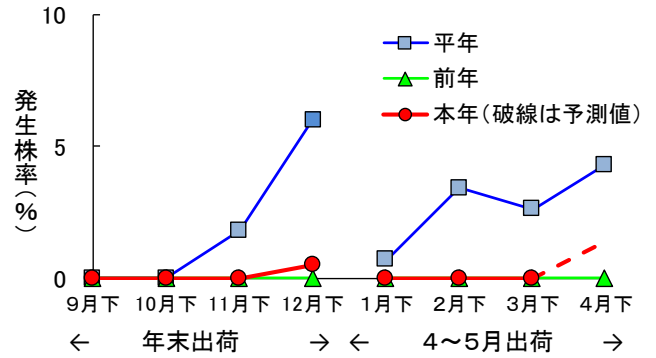


図1 キク白さび病の発生推移

## 2. アザミウム類（クロゲハナアザミウム、ミナミキイロアザミウム、ミカンキイロアザミウム）

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠  
 (1) 発生の現況  
 ①定期調査（図1参照）  
 発生株率1.5%（平年2.3%、前年1.0%）  
 平年比：並（±） 前年比：並（±）

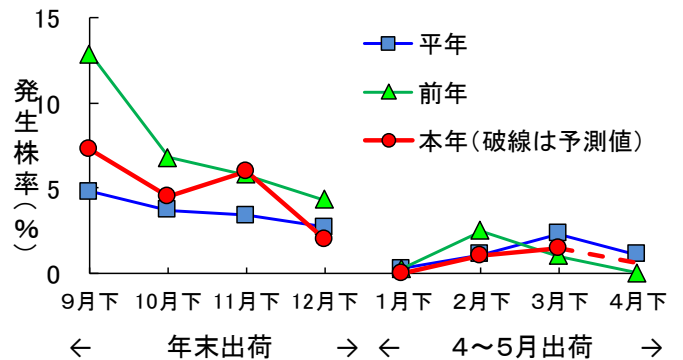


図1 アザミウム類のキクでの発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。  
 (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。  
 (3) その他は、特記事項を参照。

## 3. ハダニ類

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠  
 (1) 発生の現況  
 ①定期調査  
 発生株率0.8%（平年4.1%、前年0.5%）  
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

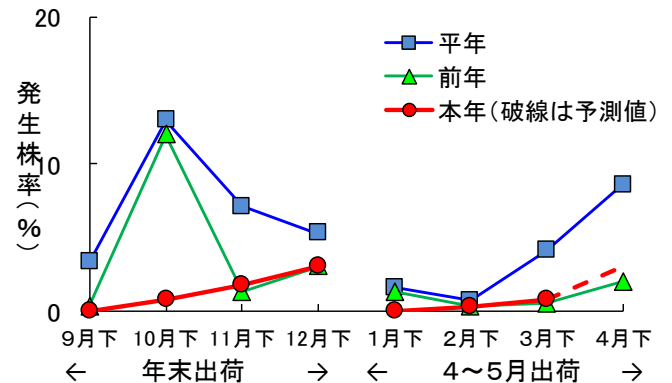


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。  
 (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない

## 4. ハモグリバエ類

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠  
 (1) 発生の現況  
 ①定期調査（図1参照）  
 被害株率0%（平年0.6%、前年0%）

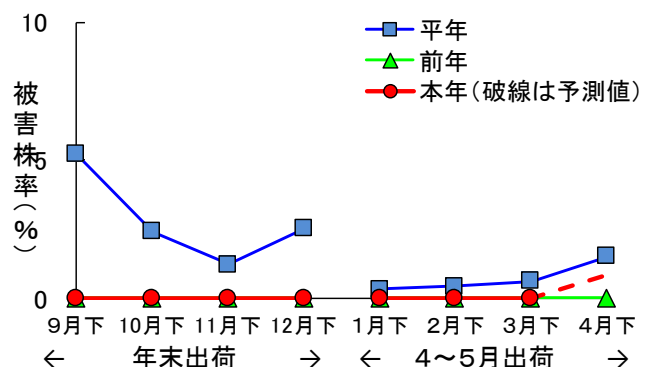


図1 ハモグリバエ類のキクでの被害株率の推移

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に防除を実施する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
--